

た。現時点での受け入れについては、「安全性の確保」と「市民の理解」といった観点から、引き続き情報の収集に努め、慎重に対応していきたい。

学校選択制見直しの現状と課題

問 学校選択制により、子ども会など地域の活動に支障を与えていると考
えられるが、学校選択制をどのように
評価し、見直しを行ったのか。

答 学校選択制により、通学の利便性の確保と地域に開かれた特色ある学校づくりの推進という成果がみられる一方で、児童生徒数の減少により部活動やPTA活動に支障が生じ、また地域での活動支援が難しくなるなどの課題が生じた。そこで、地域の中で子どもが育つことが大切と考え、地域の指定された学校に入学することを原則とした。そのうえで、自宅からの通学距離が近く、通学に支障がない場合や、希望する部活動が指定された中学校に
なく、隣接する学校にある場合は、教育委員会が認める範囲内で学校を選択
できるように見直しを行った。



明政・自由クラブ

出島ワーフの活性化

問 出島ワーフの活性化への取り組みについて、また今後の方向性について見解を伺いたい。

答 出島一帯の認知度を高めるため、さるくコースに組み込んだり、にぎわいを創出するため、帆船まつり、ハートフル・イルミネーション、ながさき祭り・恵みの感謝祭などを開催している。出島ワーフ一帯は、魅力的な水際空間としての重要な観光資源であることから、このエリアの魅力アピールするとともに、にぎわいを創出する取り組みについて努力していきたい。



出島ワーフの風景

ふれあい訪問収集事業

問 本市では、斜面地等で暮らす高齢者等で身体的理由や住環境の要因によりごみ出しが困難な場合に、玄関先まで出向きごみ収集と安全確認を行う「ふれあい訪問収集事業」が行われている。

今後の利用者数増加に対する、申請時の要件、基準設定を設ける考えや収集体制の整備について見解を伺いたい。

答 申請時の要件、基準については、同じ事業を実施している他都市の状況を調査し、本市の状況を踏まえて検討したい。行財政改革プランに基づき一般ごみの収集体制の見直しに伴い、同事業の収集体制についても平成24年度中に関係部局と協議を行い、事業の推進に向けて一定の方向性を定めていきたい。

公明党

高齢者福祉と介護保険に関する実態調査の結果と今後の取り組み

問 高齢者・障害者の買い物支援については、「第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあり実施するアンケート調査により、実態や要望を把握し、考えていきたいということであったが、その結果と改善策について示してほしい。

答 今回の状況調査では、買い物弱者は13.4%で、買い物ができない理由としては、身体的にできない、外出できない荷物持てない等であった。この支援策として、平成24年度から生活管

理指導員派遣事業の内容を見直し、買い物支援を含めた家事支援の回数を週2回に増やし、サービスの拡充を行う予定である。民間事業者や関係機関及び地元自治会とも協力しながら、行政としてどのような支援が可能か協議していきたい。

若者の農業雇用の現状と取り組み

問 若者の農業雇用の現状を示してほしい。また、農業技術習得だけでなく、経営能力など収入が見込めるような研修等の充実を図り、担い手後継者育成はもとより、農業経験のない若者も視野に入れた取り組みが推進できないか。

答 本市の平成17年度から22年度までの新規就農者84名のうち、30歳以下が15名となっている。若者を含む新規就農者対策としては、農業ヘルパー研修や農業新規参入促進事業及び人材育成事業を実施している。また、若者の農業雇用を推進するため、就農窓口の一元化、研修の充実に向け、他都市の成功事例などを参考に、関係機関との調整を図っていききたい。



農業センターでの研修の様子